

口蹄疫等防疫に関する日中韓等東アジア地域シンポジウム

- 東アジア地域における口蹄疫等の越境性動物疾病の発生拡大の防止に向けて、関係国が情報交換を行うことを目的に開催。
- 2011年から毎年、日中韓の持ち回りで実施し、2015年より、鳥インフルエンザについてもテーマとして追加。
- 今年度(8回目)は2018年6月21日に韓国(ソウル)で開催。
(農水省、都道府県、農研機構動物衛生研究部門から出席。)



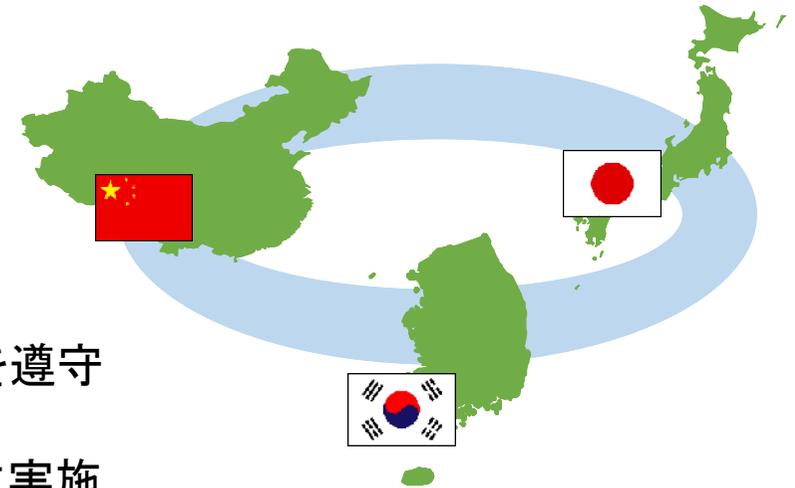
2017年 東京



2018年 ソウル

越境性動物疾病への対応に関する日中韓の協力覚書

○2015年9月13日に「第2回日中韓農業大臣会合」(東京)において、「越境性動物疾病への対応に関する協力覚書」に署名。



1. 一般原則

- 平等、相互関係、相互利益
- WTO／SPS協定並びにそれぞれの国内法令及び規則を遵守
- OIE等国际機関の目標及び活動に協調又は支持
- 共同活動の促進のため、実務者レベルの協議を定期的を実施

2. 協力分野

動物衛生情報の共有、サーベイランス・通報・疫学調査、ウイルス等の交換、診断技術・ワクチンの研究、渡り鳥の鳥インフルエンザ、人材育成、防疫対応、リスクコミュニケーション等

3. 協力体制

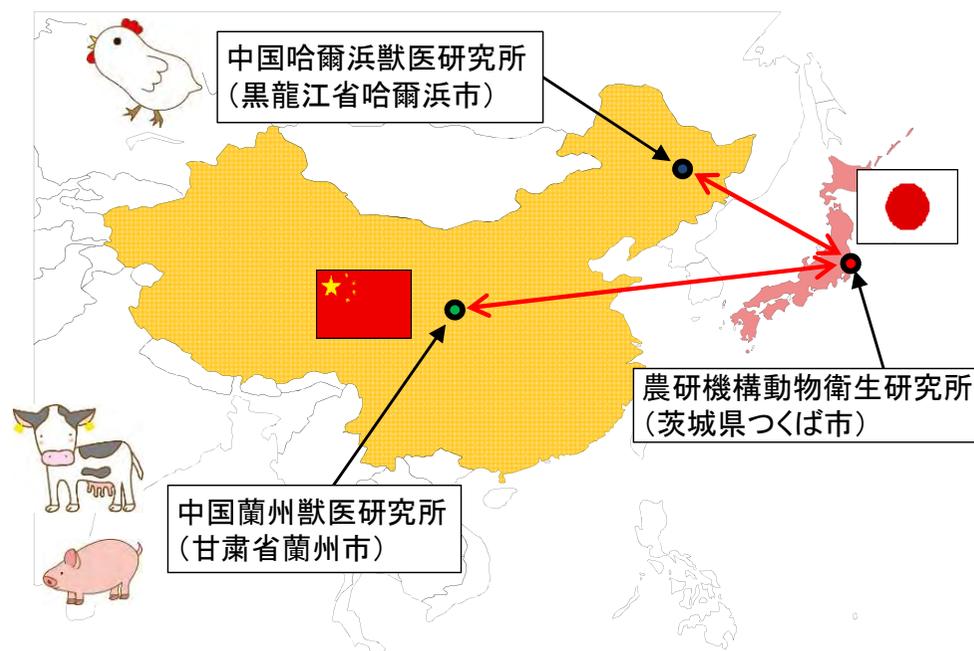
フォーカルポイントを介した情報共有、共同ワーキンググループやプログラムの設立、専門家・職員の交流、学術会議・ワークショップ、共同演習

日中の研究所間における覚書の締結

○2016年3月の「日中農業担当省 事務次官級定期対話」において、越境性動物疾病への対応について、日中の農業協力関係を深めることで一致。

○これを踏まえ、

- ①口蹄疫の共同研究等に関する覚書を、
農研機構 動物衛生研究所と中国蘭州(らんしゅう)獣医研究所との間で締結。
- ②鳥インフルエンザの共同研究等に関する覚書を、
農研機構 動物衛生研究所と中国哈爾濱(はるびん)獣医研究所との間で覚書を締結。



主な活動内容: 共同研究、技術協力、研究者の交流 等

○なお、韓国については、2012年10月に口蹄疫、鳥インフルエンザの共同研究等を含む上記と同様の包括的な覚書を、農研機構 動物衛生研究所と韓国農林畜産検疫本部(QIA)との間で締結。

G 7 獣医当局間の協力枠組み活動

G 7 新潟農業大臣会合宣言（2016年4月）

→越境性動物疾病、薬剤耐性対策等、公衆衛生・動物衛生分野における世界共通の課題に対処するため、G 7 各国の獣医当局間での協力枠組みを構築することを合意



- 2016年11月、農林水産省は、G 7 獣医当局間の協力枠組み活動の一環として、「第1回 G 7 首席獣医官フォーラム」を開催。
 - (1) 首席獣医官ワンヘルス・ワーキンググループの設置について合意
 - (2) 薬剤耐性及び越境性動物感染症に関する日本の取組の紹介及び意見交換の実施
 - (3) サイドイベントとして「動物分野における薬剤耐性対策シンポジウム」を開催。
- 第2回G 7 首席獣医官フォーラムは、2017年のG 7 議長国であるイタリアで合意。
 - (1) 抗菌剤の治療目的での使用や責任ある慎重な使用の定義について議論。
 - (2) 鳥インフルエンザの防疫及びサーベイランスの強化に関するG 7 首席獣医官取りまとめ文書に合意
 - (3) サイドイベントとして「高病原性鳥インフルエンザ世界会議」を開催。



フォーラムの様子



各国代表

OIEとの協力

OIE本部及び地域事務所の活動をサポート

○ アジア・太平洋地域における動物衛生の向上

- プロジェクトB：ワンヘルス、獣医組織
例) - 動物インフルエンザ、狂犬病、人獣共通感染症に関する専門家会合、ワークショップ、フィールドワーク
- リファレンスセンターによる研修・ワークショップ
- プロジェクトC：越境性動物疾病の対策、動物衛生の向上
例) - 地域での研修、情報共有、GF-TADs事務局の活動支援
- プロジェクトI：運営管理
例) - 各国フォーカルポイント向け地域セミナー、地域委員会に対する支援、地域の獣医組織の強化

○ OIE本部の活動への支援

- 日本人専門家の人的支援(1997年から)
- 動物の疾病にかかる発生情報の収集及び分析・活用を強化するための取組(WAHIS+プロジェクト)を支援

日本におけるOIE レファレンスラボラトリー

酪農学園大学獣医学群獣医学類衛生・環境学分野
・食の安全 *

帯広畜産大学 原虫病研究センター

- ・スーラ (*Trypanosoma evansi*)
- ・牛バベシア
- ・馬ピロプラズマ
- ・原虫病のサーベイランス及び制圧

北海道大学

- ・サケ科魚ヘルペスウイルス病
- ・鳥インフルエンザ

水産研究・教育機構 増養殖研究所

- ・コイヘルペスウイルス病
- ・マダイのイリドウイルス病

農研機構動物衛生研究部門

- ・BSE ・豚コレラ
- ・豚インフルエンザ ・牛疫

農研機構動物衛生研究部門

農林水産省動物医薬品検査所

- ・アジアにおける家畜疾病の診断及び防疫と動物医薬品評価

農林水産消費安全技術センター

- ・飼料の安全と分析

東京大学食の安全研究センター

- ・食の安全 *

- : レファレンスラボラトリー
- : コラボレーティングセンター
- : リファレンスラボラトリー及びコラボレーティングセンター

* 東京大学、酪農学園大学 及びVeterinary Public Health Center (シンガポール)は食品安全に関するコラボレーティングセンターとして指定されている。

(2018年8月現在)

OIEの獣医組織能力(PVS)の評価について

Evaluation of the Performance of Veterinary Services

- 動物の衛生、福祉及び獣医公衆衛生の推進のためには、官民併せた国の獣医組織全体の能力を高めることが重要であるとの認識のもと、OIEは加盟国の獣医組織能力評価を実施している。
- 本事業が2006年に開始されて以降、2018年5月現在、加盟国182のうち既に135か国が評価を受けている
 - ①輸出相手国が畜産物等の輸入に伴う動物衛生リスクを分析する際に参照
 - ②被評価国が自国の動物衛生体制を強化する上での優先順位付けに使用

注) 獣医組織:

OIEの動物衛生規約(コード)に規定された動物衛生・福祉等に関する管理措置を執行する政府及び非政府組織

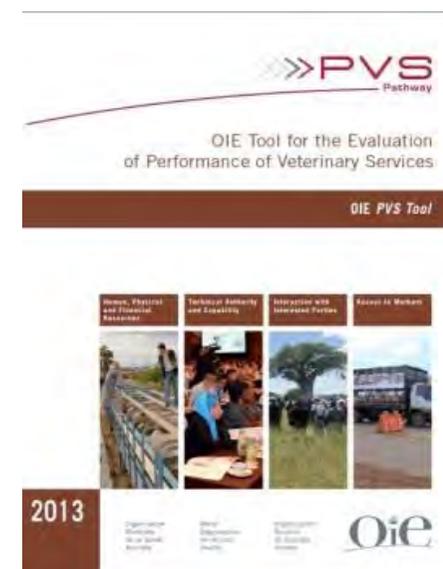
我が国は、2016年10月にOIE評価チームの現地調査を受け入れ、PVSの評価を受けた。今般、2018年7月27日付けでOIEが公表することとしたため、同日、農林水産省のHPでも公表。

(OIEの掲載先)

<http://www.oie.int/solidarity/pvs-evaluations/pvs-evaluation-reports/>

(農林水産省関連HP)

<http://www.maff.go.jp/j/syouan/kijun/wto-sps/oie.html#PVS>



OIE-PVS Tool

http://www.oie.int/fileadmin/Home/eng/Support_to_OIE_Members/pdf/PVS_A_Tool_Final_Edition_2013.pdf

我が国のPVS評価の概要

- 獣医組織能力に関する47種類の項目を5段階で評価し、改善に向けた助言が取りまとめられた。「日本の獣医組織は、優れた政策、高度に発達したシステム、動物の健康と獣医公衆衛生上の予防とコントロールに取り組むに十分な資源を擁しており、非常に発達している。」とされるなど、全般的に高い評価を受けた。

【評価結果】

評価5:33項目(70%)、評価4:8項目(17%)、評価3:4項目(9%)、
評価2:0項目(0%)、評価1:0項目(0%)、評価なし:2項目(4%)

- 報告書には、我が国の獣医療体制の更なる向上のための指摘事項も記載されており、既にこれを踏まえた取組を始めているところ。

OIEのPVS評価後の取組

1 家畜保健衛生所における検査の外部評価

平成30年度より、家畜疾病診断信頼性向上緊急対策事業を行い、日本全国の家畜の疾病の病性鑑定を担う、都道府県の家畜保健衛生所に対して、外部機関による検査技術等に関する試験結果と併せて習熟状況を確認するための現地調査を実施。

2 家畜のアニマルウェルフェアの向上

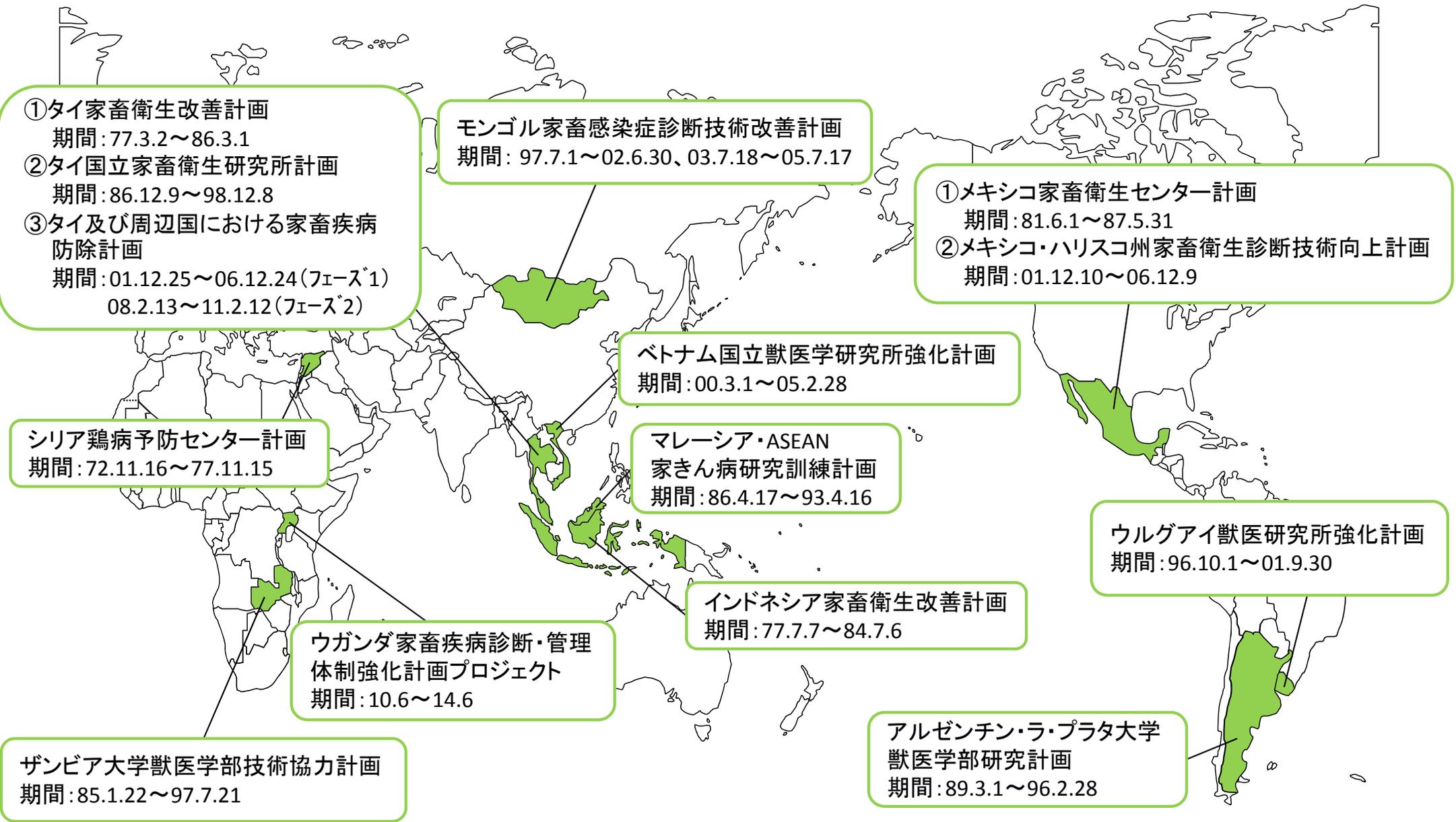
平成29年11月に、アニマルウェルフェアに配慮した飼養管理を広く普及・定着させるため、「アニマルウェルフェアの考え方に対応した家畜の飼養管理指針」((公社)畜産技術協会)の基本的な考え方を整理して示した畜産振興課長通知を発出し、環境省と連携して都道府県を通じ、管理者及び畜産関係者へ周知。

3 SNSなどを活用したより積極的な情報提供

平成30年4月の韓国での口蹄疫の発生の際には、これまでのホームページ等を通じた周知に加え、SNSを活用してより積極的に情報を発信。

今後も不断の努力により、我が国の獣医組織体制の更なるレベルアップを目指します。

過去の主な我が国の二国間協力事例



最近の我が国の二国間協力事例

ODA 事業（2016年～）

○ミャンマーにおける口蹄疫対策改善計画（無償資金協力）

ヤンゴン市の国立口蹄疫研究所において、口蹄疫診断・ワクチン製造に係る施設及び機材を整備することにより、同研究所の口蹄疫防疫対策能力を強化するとともに、ミャンマーにおける農畜産生産の安定化を図り、もって国民の生活向上に寄与することを目的としている。供与限度額は、14.17億円。

○モンゴルにおける「獣医・畜産分野人材育成能力強化プロジェクト」(技プロ)

モンゴル国内において獣医・畜産分野の人材育成の中心的な役割を担う国立農業大学獣医学部の教育カリキュラムを改善及び、関連機関と連携して社会人教育コースの充実にも寄与することで同国内の獣医・畜産技術者の能力強化を図る

○キルギスにおける「チュイ州市場志向型生乳生産プロジェクト」(技プロ)

キルギスのチュイ州において、モデル農場の開設等を通じ、生乳生産工程における搾乳衛生技術の改善を図る。